

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400022		
法人名	社会福祉法人 高洋会		
事業所名	グループホームちやたん		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町字宮城1番793		
自己評価作成日	令和2年 10月27日	評価結果市町村受理日	令和3年 1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4792400022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	令和2年 11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年度は新型コロナの影響で行事の縮小、外出支援が殆ど行えず、利用者へ少なからず、ストレスを与えています。その中で毎日、利用者へ職員の新聞等の読み聞かせ、脳トレ、オヤツ作り等を行い、利用者のペースで一日を充実した生活が送れるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階には、小規模多機能型居宅介護事業所と通所介護事業所があり、エレベーターを上がった2階が、当事業所となっている。住宅街に位置し、近隣には小学校や運動公園があり、通学をする子供たちの笑い声やゲートボールの試合をする町民の掛け声等が聞こえてくる環境にある。利用者は2階のテラスに出て、菜園の人参やネギ等の野菜やパッションフルーツ等の果物の手入れを行い、手作りのおやつのお食材として活用している。計画作成担当者が半年毎にアセスメントを実施し、利用者の生きがいや残存機能が維持できるよう書道や脳トレ等をプランに反映させ、職員間で共有しケアに取り組んでいる。町役場福祉課職員と連携し、小中学校や企業へ出向き「認知症サポーター養成講座」の講師として認知症の理解が深まるよう地域貢献に努めている。ドッグセラピストや余興ボランティア等から、コロナ禍で中止となっている活動の再開についての問い合わせがあるが、利用者と家族やボランティア団体にも待って頂いている状況となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を詰め所内に掲示し、意識し実践につなげられるように努めている。	約8年前の開設時に作成した、理念の3本柱の一つである「利用者と共に笑い、喜び、信頼関係を築き、地域とのつながりを大切にしながら、住み慣れた地域において楽しくいきいきとした生活が送れるよう支援します」をいつでも確認しやすい場所に掲示し、友人やボランティア等の訪問を歓迎し、地域の運動会や祭りに利用者が参加できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新型コロナが流行するまでは毎週、地域の読み聞かせボランティアが来所されていましたが、現在は感染対策の一環で受け入れを控えています。 ・認知症サポーター養成講座、地域の職業人講座等、依頼がきた際に対応しています。	職員が小中学校や企業を訪れ、車椅子体験学習や認知症サポーター養成講座キャラバンメイトとして講師を継続して行っている。例年は、地域のボランティアによる読み聞かせやドッグセラピー等が行われているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座に講師として参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の日程を固定し定期的に開催できるよう努めていたが、令和2年度は新型コロナの影響で2回の開催しか行えていない為、十分に活用できていない。	運営推進会議は、管理者が兼務していることから小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催し、利用者、家族、地域代表、包括支援センターや社協職員が参加し、2か月毎に開催しているが、新型コロナウイルス感染症による自粛で3回の開催となっている。会議では、活動状況や事故等を報告し、意見交換が行われている。会議記録は各委員に配布し、外部評価結果とともに公表が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北谷町役場の福祉課と、地域の支援が必要な高齢者がいた際は協力して情報交換し受け入れや、受け入れ先の検討を適宜、行っている。	3か月に1回、町役場福祉課職員と町内3か所のグループホームと連絡会を開催している。町役場主催の認知症カフェに参加したり、生涯学習プラザホールで、利用者が貝殻で作った作品の展示や職員が認知症についての映画上映の案内等を行い、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。身体拘束委員会を中心に事業所の身体拘束、虐待について会議を行い、定期的に勉強会を開催している。また運営推進会議内で身体拘束適正化委員会を開催しています。	身体的拘束等の適正化のための指針や身体拘束等行動制限についての取り扱い要領を作成し、介護職員への周知が行われている。運営推進会議後に、身体的拘束等の適正化委員会を開催し、夜間使用している職員お手製の感知センサーやクリップセンサーを外すタイミング等を検討し、議事録が整備されている。職員は、月1回の定期的な勉強会を実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し虐待について学んでいる。またケアを行う際に身体チェックを行い、異常の早期発見ができるよう努めています。	小規模多機能型居宅介護事業所と合同での虐待防止委員会があり、定期的に職員研修やスピーチロック等の勉強会を実施している。利用者への対応で、馴れ合いになった言葉遣いにならないようミーティング等で虐待防止の理解を深めるよう話し合いを行っている。職員は利用者の身体チェックを行うことで、異変に直ぐ気付くように毎日確認を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がもっていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族へ入所時に重要事項説明を行い、理解された上で入所につなげている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションを図りながら、意見、要望を確認するよう努めている。また匿名での意見、要望に関しては玄関先にご意見箱を設置し対応しています。	利用者からの意見や要望は、日々の関わりの中で把握し、「朝食をパンにして欲しい」、「便秘を改善してほしい」に対して手作り玄米ジュースの提供等、利用者の嗜好を法人の栄養士に提案し、献立に反映させている。意見箱の活用はなく、家族からの要望等は、主に面会時等に聞き、文字を忘れないよう字を書く訓練や頭の体操をさせて欲しい等の要望に応え、介護計画に反映させてケアに取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議、毎日のミーティングの中で職員の意見や提案を聞く機会を設け、検討するよう努めている。	管理者は、ミーティング時や月1回行われる会議の中で、職員からの要望等を聞く機会を設けている。夜のドライブで、打ち上げ花火やイルミネーションの見物が提案され、利用者が出掛けられるよう職員のシフト調整を行っている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に希望休みを反映し作成。業務以外の委員会活動等についても勤務時間で行うよう努め、職員の働きやすい環境整備、条件について日々、検討し対応していくよう努めている。	管理者は職員の年休や勤務変更など要望を反映できるように努め、利用者の状態変化に伴うシフト変更や資格試験の際の優先的なシフト変更を行う等で職員をバックアップしている。職員の健康診断は年1回、夜勤者は年2回実施し、法人によるストレスチェックが行われている。新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金も支給されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響で密をさける為、外部の研修や内部の会議、勉強会を控えていた為、取り組みが不十分である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で外部との交流は不十分である。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受入れ前に本人の状態を確認しながら、不安や要望等の確認に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受入れ前に家族との面談の中から意見、要望等の聞き取りを行い対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を確認し自事業所で出来る事の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で本人が出来る事を他者と共同で行っていきけるよう努めている。生活で使用するお茶パック詰めやチラシを使ったゴミ箱作りを一緒にいき、助けとなっている事を本人へ伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの影響で以前よりも家族と接する時間が減少したが日々の生活状況を家族へ伝え、最低限の面会や外出を行い、本人と家族のサポートを行うように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の昔の仕事仲間が面会に来るなどの交流や、利用者の日用品を購入する為に近隣のスーパーへ一緒に行く援助を行っていたが、新型コロナの影響で家族以外の第三者との関係性を支援するサポート体制が不十分になっている。	利用者は、元職場の上司等が訪れた際、会話を楽しんだり、職員と行き慣れた馴染みのスーパーでドライフルーツやカップ麺等の買い物をしている。ユーチューブやDVDで、出身地の山々の風景や郷土劇等を鑑賞している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーション、レク活動時に利用者一人ひとりが孤立しないよう職員が間に入りサポートを行うように努めている。また利用者の気分によってお互いが気分を害せず過ごせるように、その都度、席の配置を変更したりしサポートしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了しても家族が今後の不安等の相談があれば支援できるよう声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に家族、本人へ意向や希望の確認を行うように努め、利用後はその都度、利用者の一人ひとりへ「どこに行きたい」「何がしたいですか」「何が食べたいですか」等、聞きながら今後のサポートに活かすよう努めている。	利用者の思いや意向は、アセスメントや日々のケアの中で、お寿司が食べたい等の希望を聞いて、職員間で情報を共有している。休日に職員が釣った魚を、鮮魚店を経営していた利用者に捌いてもらい、利用者と職員は見事な包丁さばきに感心しながら、お刺身のお造りを一緒に食したことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に家族、本人へ聞き取りを行い生活歴や毎日の日課の把握に努めるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態の確認を毎日のミーティングや定期的な会議の中で、本人にあった生活が送れているかの確認と職員間での情報共有に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状況の変化があれば、家族と情報を共有し主治医などの意見を伺い計画に反映するよう努めている。	サービス担当者会議は、家族の面会時に合わせて設定し、利用者も毎回参加し、意向を確認して介護計画を作成している。介護計画の見直しは長期目標を1年、短期目標を6か月とし、アセスメントとモニタリングも半年毎に計画作成担当者が行っている。お箸や文字の練習、お茶パック詰め等利用者の得意とすることを機能維持のため計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察や記録を行い、変化があればミーティングや会議で情報共有を行い、新しい課題が表出した際は検討し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応できない際の病院受診の送迎を行っている。また業務にとらわれず、利用者の意向があれば臨機応変に外出支援を行っていたが、新型コロナの影響で外出の機会は減少している。日々、試行錯誤し質の高いサービスの提供を行うよう検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で地域資源を活用できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、入居前のかかりつけ医に診てもらおうようにしています。新型コロナの影響で往診可能な医療施設への変更も検討しています。	本人や家族の希望により、1名のみ訪問診療を利用し、他の全利用者は馴染みのかかりつけ医を継続している。受診は家族対応を基本とし、受診結果については家族から聞き、薬の変更等は申し送りで共有している。必要に応じて「情報提供書」を家族に持参させ、医師から返書をもっている。コロナ禍の現在は、状態の変更がなければ、受診を控えて処方薬のみの対応となっている。利用者は血液検査等の健康診断を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置していないが、医療的な事で相談できる看護師が複合施設内に在籍している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に関係づくりを行っているわけではないが、入退院時に情報交換を行い、スムーズに入退院できる体制を整えるようにしています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と必要に応じ事業所で出来る事を説明するようにしています。事例として末期がんの利用者を令和元年10月頃から今年の1月にかけて、家族、主治医と対応方法を協議しグループホーム内で看取りケアを行う事ができました。	車椅子の利用開始や全介助になるなど、利用者の状態変化に応じて、家族にリスクについての説明をしている。重度化や終末期については、面会時や必要時に話し合いを重ね、利用者や家族等の意向の確認に努めている。「看取り指針」、「看取りについての事前確認書」、「看取り看護・介護についての同意書」等を整備し、看取りの実績がある。看取り後の家族や職員へのグループケア、職員の共通理解を深めチームケアに繋げるための研修等の実施に期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は緊急時の対応方法についての訓練を行っておらず、その都度、業務の中で緊急時の対応方法を指導するようにしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っていますが、新型コロナの影響で地域の訓練への参加や協力体制の構築が出来ていない。	通所介護事業所等との合同で、昼間想定訓練を2回実施し、1回目は利用者と職員の計50名、2回目はコロナ禍のため参加者を減らして計15名の参加となっている。地域住民の参加や協力は得られていない。防火用水や非常電源設備等が整備され、防災マニュアルも整備されている。利用者の3日分の水や食料を備蓄し、栄養士が管理して必要に応じて補充をしている。	夜間想定訓練の実施、及び地域住民への協力依頼を工夫した協力体制の構築が望まれる。併せて、利用者と職員の1週間分の備蓄の整備も期待したい。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にミーティングや会議の中で声掛けや態度に関する接遇の重要性について話し合いをもつようにしています。	職員は、利用者の意思を尊重し、利用者がやりたいことを聞いて不快にならないよう丁寧な対応に努めている。敬老会や利用者の生年祝いを実施している。接遇の勉強会等で不適切なケアについて再確認し、馴れ合い的な言動があった場合は職員会議で話し合い、日常の業務の振り返りを行っている。「プライバシー保護マニュアル」が整備され、職員は守秘義務を周知している。個人情報保護方針と利用目的が掲示されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの「やりたい」を尊重し可能な限り、対応していくように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れはあるが、本人のペースを乱さないようにケアを行っており、本人の希望にそってケアを行っていくよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば髪の毛染めや化粧を行い、衣服も本人に選んでもらって対応するよう心掛けています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲でオヤツ作りなどを活動に取り入れており、本人が食べたいものや出来立ての食べ物を食べられるように努めている。時には個人が食べたいものを、購入し提供する事もある。食事の準備や片付けは積極的には行っていないが、テーブル拭きを手伝ってもらう事もある。	3食ともご飯とお汁は事業所で作り、副食は配食を利用して適温で盛り付け、提供している。利用者の希望に応え、パンのメニュー、カップ麺やティビチを提供したり、菜園で収穫した人参やネギ等の野菜も活用しておやつに活かしている。利用者は、天ぷら等のおやつ作りやテーブル拭き、食器洗い等を行っている。中味汁等の沖縄料理や寿司等も提供している。職員は利用者と同じ食事を一緒に摂っていない。	利用者と職員が同じ食事を一緒に食べる意義を再確認し、味つけや食事の量、利用者の食欲等に留意しながら、同じ食事を一緒に味わう取り組みが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事、水分量のチェックを行い職員間で日々のミーティングで情報共有を行い、摂取量が少ない際は水分の促しを行ったり、本人の好むものを準備する等し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必要に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせて、排泄の促しやトイレへ案内する等、アプローチを心がけている。	利用者の排泄パターンに応じた個別の排泄支援に努め、声かけやトイレ案内、おむつ交換のタイミング、下着の選択等工夫している。日中は7名、夜間は6名の利用者のトイレ排泄を支援し、ポータブルトイレは、夕方居室に設置して朝片付けている。立位が保持できるよう歩行訓練を取り入れたり、体操等をして、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認しながら主治医との相談のもと下剤の調整を行っています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は設定されています。入浴に対し本人の意向があれば、その都度対応していけるよう心掛けています。	入浴は、週2回午前中、1日3名の利用者の支援を基本として行っている。午後入浴等、利用者の希望や体調に応じた支援も行っている。入浴中はBGMを流し、愛用のシャンプーや石鹸を使用し、入浴後の化粧水等も家族に準備してもらい、利用者が楽しめるよう工夫している。利用者の自立度や羞恥心に配慮し、見守りの仕方も立ち入りすぎないよう工夫している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適宜、本人の状態を確認しながら休息を促しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服のチェック体制やマニュアルを整備しています。しかし薬に関する事故は時々発生しており、その都度、会議を開きマニュアルの見直しを行っている。	「薬確認表」で、利用者個々の服薬情報が確認できるようにし、個別の「薬・受診ノート」で申し送りをして、情報の共有化に努めている。服薬管理マニュアルを整備し、シフト別の業務マニュアルにも服薬介助について記載され、支援方法の周知を図っているが、飲み忘れや落薬等の誤薬が数回以上発生している。その都度、職員会議で話し合い、再発防止に向け、支援方法の確認やマニュアルの見直し等を行っている。	誤薬が発生しないよう職員の統一した服薬支援への一層の努力が望まれる。同時に、発生後の対応、再発防止のための検討会議、職員の情報共有等についても追記した服薬支援マニュアルの整備が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者や職員が生まれる前の話を聞いたり、気分転換に外気浴を行い、生活がマンネリ化しないよう努めており、個別に楽しむ時間、職員と利用者同士が楽しめる時間を作るよう努めています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が対応できる日中の時間であれば、外出などの要望に応えるよう努めていますが、今年度は行っていない。	天気に応じて、ほぼ毎日午後に、テラスや隣の公園に全利用者が出かけている。昨年11月には、町民運動会(1名)、外出レク、合同レク(9名)に参加し、今春は初詣やひまわり畑の花見に多数の利用者が参加している。新型コロナウイルス感染症が流行する前は、身の回りの品やお菓子等の買物、海までの散歩等も支援していたが、現在はほとんどの外出を自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は自己にて管理できる方のみ対応しています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて家族と連絡がとれるように支援しています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるように取り組んでいます。ユニット内で各々が好きな場所で自由に過ごしてもらおう事を心がけています。	共用スペースは、利用者が安心・安全に過ごせるよう配慮し、ハロウィンやクリスマス等の行事に合わせた飾り付けをして、季節感が味わえるような空間づくりを行っている。利用者と職員が向かい合って話し合えるスペースや利用者がゆったりと過ごせるようなスペース作りに工夫している。ベランダには、野菜やパッションフルーツ等を植え、利用者が水やりをして収穫を楽しめる菜園がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置は居場所は固定せずに、自由に居室やホールを共用できるよう心掛けているが、事故や体調不良時等の見守りが必要な利用者は制限する事がある。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が作った作品や家族の写真を飾ったり、入所前に使い慣れた物品を持ち込んでもらうように努めています。	各居室にはベッドやダンス、エアコン、空気清浄機、テレビ、ナースコール等が備えられ、適宜換気を行っている。利用者は、ラジカセや収納ボックス、大きな鏡、イス等を持ち込み、家族の写真や自作の飾り物を飾っている。ベッドの位置を変更して動線のスリム化を図ったり、写真を貼る場所も工夫する等利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が移動する動線の環境整備を行い、ヒヤリハットや事故が起きた際、環境の見直しを行うように努めています。利用者が安全に自立した生活が送れるよう心掛けています。		